

時事新報

日本は海國なり(昨日の續) 在ポーストン某生
右は經濟の點に於て我國の位置英國に等しきが故に其
經濟も亦有形の物理上自ら等しからざる可らずとの
事を述べたるものなり又軍備の點に於ても國の位置
同じして二ながら海國たる以上は兵制も亦其趣を共
す可しとの次第を陳述せん抑も世界萬國の兵制を通
覽するに其仕組一様ならず或は歩兵を以て長所とする
者あり或は騎兵を熟する者あり又は海軍を以て武威を
四海に振ふものありと雖も之を要する軍備の種類
は海陸の二様と過ぎず大陸國にして四隣他と相接する
の國に於ては退て外敵の侵入を防ぐも又自ら進で隣
國を襲ふも頼む所は陸軍の力に依らざるは亦其故に其
勢自ら陸軍を以て軍備の第一線となさざるを得ず歐
洲大陸に限りて全國民の制あるも蓋し此理に依るもの
ならん固より日耳曼の如き露西亞の如き尙武の國に在
ては陸軍の外に相應の海軍を備へざるにあらざる可
も其海軍は唯陸軍を補助し兼て又通商の道を保護する
爲めのものにして獨り之に依て國運の成敗を決するの
目的を以らざるが故に之を軍備の第二線と云ふ、左
は今日日耳曼の兵制は天下に冠たりと云ふも雖も其
冠する所以は第一線の陸軍に在りて海軍に在らざるは
世人の能く知る所なり之を以て英國の如き嶋國に在
ては地形上攻守共海軍の力に藉り先づ海軍を以て充
分の備を試み海軍敗れて後始て陸軍の力に依るの覺
悟されば海軍は第一線にして陸軍は第二線と位し以て
海國たるの兵制を立る者なりと云ふべし彼のシニクス
ピアの語に我英國は恰も天險の銀波を以て遮りたる寶
玉の如し何人にも此寶玉を覬覦する者は先づ其銀波
を押領せざるべからざる也蓋し此意味も蓋て英國
の海軍は強大にして恰も銀波の天險を専有するの姿
あるが故に此國土に侵入せんとする者は先づ其天險を
し其海軍と戦ひ之を取て後始て志を逞うす可し今
日の英人も亦自ら見る所あるか度々議院に提出した
る彼の英海峽陸道開穿の議も毎々廢案となりて遂に行
はるべき模様なし蓋し我輩外人の目を以て視る時は如
何とも頑固の所爲も英國人は文明の交通を嫌ふ者の
如くも見ゆれども若し一度此陸道を開て汽車を通
ずる時は即ち自ら銀波の天險を破壞して海國たるの
天幸を失ひ直に歐洲の大陸國と境を接して恰も盜賊
の鑿を貸すの姿あるが故に隨て自國の軍備をも一變し
從來藉て以て國威を振ひたる第一線の海軍は忽ち無用
の長物となり却て今日其第二線の地位ある所の陸軍
を擴張して以て之を其第一線に移さざるべからざる
の形勢に至るやも圖る可らずとの考よりして容易に
の行はれざるもならん英國の軍略は敵を近海に防ぎ
止めて上陸を許さざるに在り之を以て歐洲大陸國の
軍備は第一線を陸軍とすべし故に陸軍に於ては逆も美
兵杯の比較すべきならざる也海軍に至ては大陸國
は恰も自家の第二線を以て英の第一線に對するが故に
海上の利は常に英國に歸せざるを得ず在昔トリアル
ガル被及奈兒の戰爭を觀ても其言の通りを知るべ
し拿破崙第一世の如き全歐の大陸を以て蹂躪したれども
彈丸黒子の英國に侵入するを得ず海國の天險決して忽
にすべからざるなり英國の事實の次第ありとすれば
我日本は東洋の英國なるが故に其兵制も亦海軍を以
て第一線となし陸軍は輔く之を第二線に置かざる可ら

ざるや明かり今日我陸軍は専ら日耳曼の制に倣ふよ
四隣敵と接する大陸國の備に要する其兵制を以て直
に我海國に用うるとは其得失少しく疑ふ所なきを得ざ
れども其得失論は之を擯き我國全體の兵制に於て戰備
の第一線を陸軍にして海國主要の海軍をば却て第二線
に置くが如き姿あるは我輩の常に感服せざる所なり我
陸軍甚だ強大なるも非ずと雖も日本國の固有に古來士
族ある者ありて現軍役の勞も堪ふる者五十萬人に下
らず而して此士族ある者は祖先傳來唯武勇一偏の者な
れば一朝事あるの日は暫らく之を以て常備兵の不足
を補ひ假令へ必然の勝算なきも尙は容易に取らざる
程の覺悟なきにあらざれども海軍に至ては常に勝算
なきのみならず迎も敵艦と鋒を交ゆるさへ出來難くと
あらん軍艦の總數僅々三十餘艘にして總噸數五萬噸に
上らず或は二千五百噸の積載量にして其蒸氣力僅に八
馬力のものあり或は木製鐵骨今日の軍用不適せざるも
の少からざるにして其軍艦の名を下だす可きは僅に
數艘と過ぎずと云ふ海國の名に對して聊亦面を情なき
を得ず、或は我國の實力は迎も攻防の備も充分を留
む可らざるものあれば寧ろ一切軍備を廢し我獨立の體
面を歐洲諸大國に委任して我は中立國の地位に立つ
可し我國の腕力頼むに足らずと云は、是れ亦一説され
ども已に幾分自國の兵力に依りて獨立を維持せん
と欲する以上は自國相應の軍備は今日の形勢に於て缺
くべからざる也其軍備を缺くべからざるもの
とせば國の地形位置に依りて兵制をも組織せざる可らず
我國は太平洋の一隅に孤立する嶋國なるが故に内地よ
り敵の侵入する道なく其來たるや必ず海よりせざるを
得ず、海より來る敵を難く内地に上陸せしめ陸軍を
以て之と戦はんとするは海國の戰略上にある可らざる
とよして嶋國の天險を自棄する者と云ふべし海軍の擴
張一日も猶豫す可らざるか或は海軍の擴張に就ても
資金不足の異議あらんれども事前後緩急あり今日
の政費中減す可きもの少からざるも尋常の政費の
み節す可きならん陸軍の所費を海軍に譲るも亦可なり
前にも云へる如く陸軍は國防の第二線にして其主用
は内地の騷亂を制するに在るのを而して内地の亂は
竹槍席捲にあらざれば無智無謀の書生隊も過死す此の
聲を鎮壓するも何ぞ強大なる陸軍を要せんや假令へ或
は一時英雄の起りて内亂を催はすも其内亂の
結果は治者の交代政府の變革等に止まりて毫も憂ふる
に足らず固より外敵の侵入と同日の論もあらざるあり
去れば今の陸軍を半減し又は四分一に減ざ其費用を移
して悉く之を海軍に用ひ全國の實力を擧て唯此一方に
集りて海國たるの面目を保持し東洋一の英國を始
創すべきものなり (完)

○司法省訓令第十七號 始審裁判所 治安裁判所
親族又ハ區戸長ニ於テ保管スル失踪逃亡並死亡者ノ遺
留財產處分ノ件ハ自今始審裁判所所在地ヲ除クノ外皆
轉治安裁判所ニ屬シテ之ヲトテ治安裁判所上席判
事ハ始審裁判所長ノ代理心得ヲ以テ之ヲ轉許ス可レ
明治廿一年十二月七日 司法大臣伯耆山田顯義

○既にして七萬圓 横濱の水道を開きたるは恰も去年の今
頃にして殆んど一年及びたり其収入は年々十萬圓
の算算されども最初の頃は水道の水を使ふて料金を

○横濱税關の工事 横濱税關構内の倉庫は荷物多數
を以て狹隘を感ずるに至りたれば今度土木會社と特約を
結び上屋に代用する倉庫を新築する等にて其見積金高
は四萬五千圓内外、落成の期は來年十一月頃ありと

○會長岡田親會 會津桑名長岡の舊三藩人は戊辰の
年に死生を共にして薩長に抗敵せし緣故ありとて年々
一回づゝ懇親會を催はし來りしが本年は第七回にて明
九日午後一時より江東中村樓に開會する趣なり

○穀穀織物品評會 埼玉縣下加須町に於て去る三日よ
り開設したる穀穀織物品評會は明日九日發賣授與式を
執行する筈に付農商務省工務局より平賀義美、片葉
六郎、農務局より船津傳次平の三氏が之を臨場し農工
業に關し一場の演説を爲す筈ありと云ふ

○外國爲替相場平均表 去る十一月中横濱の同相場平
均左の如くなり

倫敦參着	三志〇片八分の七	四箇月後	三志一片
里昂參着	三法九十一參	四箇月後	二分の一
紐育參着	七十五佛二十七仙	四箇月後	三法九十一
		七十六佛	
		七十七佛	

○紀州柑柑 最早九艘の入津にして合計十二三萬箱
に達せしが本年は産地不作を唱へて高氣あるも府下近
縣の柑口おしく爲めに相場は昨冬に變りあきも同品を
受荷する問屋の年毎増加し今は荷主も仕切り金の好
き方へ船先きを向くるのみならず近來同品の取引は都
て銀行爲替にて積送る爲め問屋の融通も更利かす隨
て小賣水菓子屋又は田舎の注文も悉皆現金の姿されは
斯る際物も拘はらず同品の賣買は漸く薄利に過ぎざ
といふ

○青海小抽綿 安きは二ノ子綿の輸入より高きは棉布
の重荷に至るまで實富に隨て別みとあれ世間昔來服の
織ひ織らぬ最忙はしき季節かれは中等以下なる輸入用
の供給に青梅綿の先行も中々の擧日不々擧日不々

左記ノ二箇内外訴訟代官辯
房ニ參拜シ 東京府區區地一丁目二番地

小生歸京後今尙病氣未付事知
諸君へ御無沙汰仕候此段謹謝ス
歸京報告 日下部東作

硯海雜誌ノ第廿七號ヨリ休
ノ新聞本ト廣ク通信員ヲ各郡區ニ配置シテ
巨細ノ事件ヲ網羅シ加フルニ毎號優美ナル小
説ト併シテト論ヲセラルル下ノ